英雄胡友平女史への頌歌、日本大使館への賛辞、日中友好の構築！

福井県立大学名誉教授　　凌星光

本文は中国語で書き、6 月 30 日に公表、中国の読者からは好評を得た。ある日本の友人が、是非、本文を見たいというので、日本語に訳した。日本の読者からも共鳴を得られれば幸いである。（2024 年 7 月 7 日）

１　6 月 24 日の事件

6 月 24 日、蘇州で日本人母子とスクールバスが襲撃される事件が起きた。バス案内役の胡友平さんは勇気ある行動で、まず刃物で切り付けられた母子を庇い、次に犯人がバスに乗り込もうとするのを阻止し、母子とバス内の子供たちを救った。しかし、胡女史自身は刺されて重傷を負い、26 日、救急手当の甲斐なく不幸にして息を引き取った。人を救うために勇敢に闘う彼女の正義の行動に人々は深く感動する。あの時、犯人を止めなければ、多くの犠牲者を出していただろう。中国の全国民は、彼女の正義感に感嘆し、彼女の死を惜しんだ！ 蘇州市は、胡女史に「正義と勇気の（見義勇為）模範」という称号を授与された。

中国各界の人たちは、悲しみと哀悼の意を表明すると同時に、金銭や物品を寄付してお悔みの意を表そうとした。しかし、家族は次のように応えた。「ここ数日来、私たちは各方面からお心遣いとお悔みを賜り、皆様のお気持ちに心から感謝いたします。が、金銭と物品につきましては受け入れないことを、家族会議にて全員一致で決定いたしました。それらについては、各地にある『見義勇為基金』に寄付されるよう、ご提案致します」と。 これは中国社会がますます成熟し、ますます文明的になったことを反映している。28 日、蘇州市葬儀ホールで胡友平さんの告別式が行われ、家族、友人、親戚、一般市民、及び市・区レベルの関係指導者が悲しみと哀悼の意を表した。

２、日本大使館の友好的な対応

6 月 28 日午前 10 時過ぎ、金杉憲治駐中国日本大使は弔辞を発表した。「日本政府、国民を代表し、勇気ある行動に深い敬意を表すとともに、心からのお悔やみを申し上げる」「彼女の勇気と善意は、多くの中国の人々を代表するものだと信じています」と。そして、大使館内に日本国旗を半旗に掲げた。前回、国旗を半旗に掲げたのは、安倍晋三元首相が暗殺されたときだと言う。ということは、金杉大使と日本大使館が、如何に胡友平女史の正義の行動を重視しているか、如何に中国国民に尊敬の念を抱いているかを示している。28 日午後から 29 日午前にかけて、日本のメディアはこのニュースを繰り返し報道し、日中関係の雰囲気改善に喜ばしき好影響を与えた。

金杉大使がこれほどまでにこの正義の行動を重視し、日中関係の改善に資する果断な措置を敢えてとったのは、昨年 12 月 19 日に赴任する際に語った抱負と関係があると察する。彼曰く：「 日中両国の間には様々な協力の可能性がありますが、同時に、数多くの課題や懸

念があります。そうした中で、諸懸案についても対話をしっかりと重ね、共通の課題については協力していく」必要がある、と。この半年間、金杉大使は対話と協力を強化するために、いろいろな活動を積極的に展開してきた。例えば、1 月 24 日には対外連絡部の劉建超部長、4 月 11 日には天津市党委員会の陳敏爾書記、5 月 20 日には安徽省の王慶賢省長、6 月 6 日には民政部の陸志遠部長、6 月 13 日には甘粛省党委員会の胡長生書記などと会談した。

3 日本のメディア動向について

近年、非常に残念なことだが、日中間の雰囲気に好転の兆しが見えると、何かの問題が起き、日本のメディアによってそれが誇張して喧伝され、好転の兆しが抑え込まれてしまう。最近、日本の世論は、中国との対話や平和外交を求める声がまたもや高まり始めてきた。そんな折、6 月 24 日の事件が起きた。当初、日本の一部メディアは、日本人母子とスクールバスが襲われたことだけを報道し、胡女史の勇気ある行動については殆ど報じられなかった。しかも、少し前に吉林省で起きた外国人 4 人と中国人観光客が刺された事件と絡めて、「中国には排外主義的な感情がある」「現地の日本人は動揺している」など偏った報道が多く見られた。

が、26 日、胡友平さんが亡くなると、状況は一変した。彼女の勇気ある行動が日本のメディアに紹介され、日本人の心は完全に中国人の心に融合していった。「暴力の前では、中国人と外国人の区別はなく、正義と犯罪の闘いしかない。」 特に、日本大使の弔辞と半旗掲揚の写真が日本に紹介されると、日本中に中国社会と日本社会の共鳴現象が生じ始めた。これはここ 10 年来稀に見る好ましき光景であり、それをいかに持続させ、発展させていくかが重要な課題となっている。

4 悪循環を好循環へ

現在、日中関係は厳しい状況にあるが、胡友平さんの正義の行動は、両国の人々に慈雨をもたらしてくれたようなものだ。このごく普通の中国人女性の行動は、中国人の優しさと勇敢さを表し、正義のために勇敢に人助けする精神を示してくれた。それは中国人だけでなく、日本の方々にも感動を与えた。これを契機に、日中間の雰囲気を悪循環から好循環に変えることができないものだろうか？

外部的要因と日本の中国に対する誤解により、四つの政治文書は有名無実化し、両国関係は悪循環に陥っている。ここ 5 年間、「中国脅威論」や「台湾有事即日本有事論」が飛び交ってきた。日本外交の自主性喪失及び「中国をライバル視する」ようになったことから、中国の日本に対する態度も厳しくなり、日中間の国民感情はこれまでになく悪化してきた。

しかし、ここ数日の現実は、日中両国民の真の感情的融合の可能性を十分に示したし、開明的有識者の存在も十分に示された。両国国民と開明的有識者の努力によって、外部の影響力を徐々に除去し、国交正常化の原点に戻り、日中関係を好循環の軌道に乗せることができると信じたい。

2024 年 6 月 30 日